

令和7年7月

令和6年度 特別の教育課程の実施状況等について

岐阜県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
瑞穂市立穂積小学校	瑞穂市教育委員会	公立

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学 校 名	特別の教育課程の編成の方針等の 公表 URL
瑞穂市立穂積小学校	https://edu-mizuho.com/hosyo/20220419_3584/

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
瑞穂市立穂積小学校	https://edu-mizuho.com/hosyo/page-3405/	https://edu-mizuho.com/hosyo/page-3405/

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

☒計画通り実施できている

☐一部、計画通り実施できていない

☐ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

特記事項なし

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

☒実施している

☐実施していない

<特記事項>なし

3. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

本特例は児童生徒を含む外国人が年々増加傾向となっている瑞穂市において、文化や言語の違いを乗り越えてどの児童もグローバルな視点を持ち、互いを尊重し合えるよう低学年の早い時期から外国語活動・外国語科の教育を行うものである。

本校は外国につながるのある児童が約30名在籍しているが、早期から外国語活動・外国語科を行うことで、外国につながるのある児童が授業で活躍したり、異文化を理解したりしており、どの子も互いを尊重し合いながら生活することができている。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

早い時期から外国語活動・外国語科の教育を行うことで、英語を聞いたり、話したりすることへの抵抗がない児童が多く、英語を通して、自分の思いを積極的に伝えようとする態度が養われてきている。昨年度、後期に行った学校アンケートでは、「子どもは外国語（活動）の学習に進んで取り組んでいますか。」という項目に、約65%の保護者が「あてはまる。」「どちらかというにあてはまる。」と回答しており、多くの児童が外国語（活動）の学習に前向きに取り組んでいると言える。その一方で約35%の保護者が否定的な回答をしていることから、外国語（活動）の学習内容が簡単すぎる（面白くない）、または、難しすぎる（分からない）と感じている児童もいるのではないかと考えられる。

4. 課題の改善のための取組の方向性

本校では、外国語（活動）を英語専科教員が教えている学年（学級）と、英語免許をもたない学級担任が教えている学年（学級）がある。学年の発達段階に相応する学習を行うことができるよう、英語教育推進教師等が中心となって、3年生から6年生までのカリキュラムの系統性を共通理解できるようにする必要がある。4年間の系統性を共通理解し、児童が興味をもてる学習内容、適度な難易度の言語活動を行うことで、外国語（活動）の学習が「面白い」「分かる（できる）」と感じる児童を増やすことができると考える。